

文章に表れているものの見方を読み取る
 〈故郷に寄せる思い〉

組 番 氏名

鈴木さんは、国語の時間に、平成二十四年は「古事記」編さんから千三百年にあたり、県立図書館には特設のコーナーが作られていることを聞きました。そこで、さっそく、県立図書館で「古事記」を借りて読んでみると、「古事記」の中には、宮崎を舞台とした話や地名が数多くあり、千三百年の年月を超えて「古事記」が身近に感じられました。また、倭建命が故郷を詠んだ短歌があり、昔の人も、今の時代に生きる私たちに通じる思いがあることに気づきました。

そこでさまざまな時代に書かれた「故郷」を題材にした文章を集めてみることにしました。

資料 1

「古事記」(奈良時代)
 其より幸行して、能煩野に到りし時に、国を思ひて、歌ひて曰はく、
 倭は 国の真秀ろば たたなづく
 青垣 山籠もれる 倭し麗し

【現代語訳】
 (倭建命が)そこから(更に)進んでいらして能煩野に到着したときに、故郷を思って、歌って言うことには、
 大和は、国の中でも非常に優れたすばらしいところだ。重なり合った、青い垣根のような、山々の中に籠っている大和は美しい。

資料 2

「万葉集」阿部仲麻呂(奈良時代) ※ 中国に渡ったときに詠んだ短歌。
 天の原ふりさけ見れば春日なる三笠の山に出でし月かも

【現代語訳】
 大空をはるか遠くまで眺めると月が輝いている、あれは昔、故郷の三笠山に出た月なのだ
 な。

資料 3

「ふるさと」高野 辰之(大正時代)
 うさぎ追いし かの山 小鮒釣りし かの川 夢は今も めぐりて 忘れがたき故郷
 いかにいます 父母 恙なしや 友がき 雨に風に つけても思いいづる故郷
 こころざしを 果たして いつの日にか 帰らん 山はあおき 故郷 水は清き故郷

資料 4

石川 啄木(明治時代)
 ふるさとの訛なつかし停車場の人ごみの中にそれを聴きに行く

資料 5

若山 牧水(昭和時代)
 なつかしき城山の鐘鳴り出でぬ幼かりし日ききしごとくに

(一) 資料1～5に共通する、作者の故郷に対する気持ちはどのような気持ちですか。資料の中の言葉を参考にして十字以内で答えなさい。

例
な
つ
か
し
く
思
う
気
持
ち

〔解答のポイント〕
資料4・5に具体的に表れているなつかしいという言葉を使います。

(二) 鈴木さんは、左の表のように、その作品がどのような視点で描かれているか考えてみました。表中の()に当てはまる視点を、資料1～4の視点「風景、人、音」の中から一つ選んで書きなさい。

資料1	風景	資料2	風景	資料3	風景・人
資料4	音	資料5	(音)		

〔解答のポイント〕
「城山の鐘鳴り出でぬ」に着目します。

(三) あなたの学級では、故郷に寄せる思いをテーマとした感想文を書くことになりました。資料1～5の中から、あなたが最も心に響いた作品を一つ選び、自分の体験や考えを交え、次の条件をふまえて書きなさい。

条件

- ① 選んだ資料番号を書くこと。
- ② 一段落目には、選んだ作品に用いられている語句を使って、筆者の故郷に対するどのような気持ちに響いたのか具体的に書くこと。
- ③ 二段落目には、選んだ作品と同じ視点で自分の体験や考えを書くこと。
- ④ 百五十文字以上、百八十文字以内でまとめて書くこと。

例
選んだ資料番号
例
4

〔解答のポイント〕
どの資料を選んでもかまいません。心に響いた作品を一つ選びましょう。

た	困	ね		ち	行	郷	
こ	ま	て	修	が	き	の	故
と	れ	も	学	心	故	訛	郷
を	て	、	旅	に	郷	を	を
実	お	買	行	響	を	わ	離
感	り	い	で	き	な	ざ	れ
し	、	物	京	ま	つ	わ	て
、	宮	を	都	し	か	ざ	暮
心	崎	し	に	た	し	停	ら
細	か	て	行	。	ん	車	す
く	ら	も	き		で	場	啄
な	遠	京	、		い	に	木
り	く	都	道		る	聞	が
ま	離	弁	を		気	き	、
し	れ	に	尋		持	に	故

- 一段落目は、選んだ作品のうち、どのような点が心に響いたのかを、作者の故郷に対する気持ちを具体的に表している言葉をもとに書きましょう。
- 二段落目は、選んだ視点と合わせ、日常の自分自身の体験や家族とのふれあい、総合的な学習の時間の学習や地域の伝統芸能、地域での活動等を通して感じたことなど、具体例を入れて書き表すと相手に伝わりやすい感想文になります。
- 解答は、あくまでも例です。条件に沿った解答であれば正解です。



言	た	の	農	え	と		い	感	の	故	
う	っ	祖	産	過	学	総	が	し	山	郷	異
。	て	父	品	ぎ	習	合	心	、	々	を	郷
故	も	は	の	て	を	的	に	誇	の	懐	の
郷	海	故	す	感	し	な	響	り	美	か	地
が	や	郷	ば	じ	て	学	い	に	し	し	に
宝	納	を	ら	な	い	習	た	思	さ	み	あ
。	豆	離	し	か	る	の	。	う	、	、	る
誇	は	れ	さ	っ	。	時	、	す	あ	作	
り	故	て	を	た	普	間		そ	ば	ら	者
な	郷	五	感	自	段	に		の	ら	た	が
の	が	十	じ	然	当	、		作	し	め	、
だ	一	年	た	環	た	ふ		者	さ	て	自
。	番	以	。	境	り	る		の	を	故	分
	と	上	私	や	ま	さ		思	実	郷	の

180

150

例

選んだ資料番号

例

1



（解答のポイント）
どの資料を選んでもかまいません。心に響いた作品を一つ選びましょう。

訛	れ	話	た
に	ら	し	。
も	れ	声	宮
、	ま	の	崎
故	せ	な	空
郷	ん	つ	港
が	。	か	に
あ	風	し	着
ふ	景	さ	い
れ	だ	と	た
て	け	安	時
い	で	心	の
ま	な	感	人
す	く	は	々
。	、	忘	の